

■ 開設年度		■ 開講部局			
2011		共通教育			
■ 科目名					
循環と共生の科学技術社会					
■ 英語科目名					
Circulation and Co-existence Science-Technology Society					
■ 前後期		■ 開講区分		■ 科目形態	
前期		毎週		講義	
■ 単位数		■ 大分類（科目）		■ 中分類（分野）	
2		教養科目		分野1	
■ 受講学部学科					
全学部学科					
■ 担当教員		■ 担当教員所属			
野崎 勉		名誉教授			
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）			
090-9657-7068		nozaki_counselor@yahoo.co.jp			
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）					
【メール】随時					
■ 共同担当教員					
■ キーワード1		■ キーワード2			
社会的貢献意識		コミュニケーション能力と相互理解			
■ 授業概要（目的・内容・方法）					
産業革命以降、おびただしい化石燃料の多用と科学技術の発展とともに、地球温暖化をはじめとする地球環境問題が顕在化している。過去の蓄積としての化石燃料に依存しない持続可能な資源循環型社会を目指し、70億人もの世界人口と自然との共生には、国家や民族を越えた共生が不可欠である。そこにはさらにステップアップした技術と、新しい価値観や倫理観、そして、科学技術の適用者と利用者とのコミュニケーションが不可欠であり、高度化・複雑化した科学技術の専門家とエンドユーザーとの知識のかい離をいかにして少なくしていくかについて考える。					
■ 学習目標					
文系・理系の学生を問わず、従前の技術開発のあり方を検証し、循環と共生を基軸とした持続可能な社会構築のための新たな科学技術のあり方について理解を深める。					
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）					
1．ガイダンス（講義概要など） 2．これまでの技術（科学技術史概論） 3．これまでの技術（科学技術の光と影） 4．これまでの技術（資源とエネルギー） 5．地球環境問題（地球環境問題概説） 6．地球環境問題（人口問題、地球温暖化、砂漠化、環境ホルモンなど） 7．これからの技術（省資源と省エネルギーの技術） 8．これからの技術（ゼロエミッションと再生可能エネルギー） 9．これからの技術（循環と共生の科学技術） 10．これからの技術（老子思想に見る柔弱の理） 11．科学技術と社会（科学技術コミュニケーション） 12．科学技術と社会（技術者倫理と環境倫理） 13．科学技術と社会（環境ビジネス） 14．科学技術と社会（暮らしの中の科学技術） 15．科学技術と社会（暮らしの中の科学技術）					
■ 受講要件		■ 成績の評価基準			
		出席40%、中間課題提出物60%により総合的に評価する。			

■教科書	■参考書
野崎勉「循環と共生の科学技術社会」鹿児島学術文化出版 2009年	野崎勉「循環型共生社会をめざして、今、私たちにできること」鹿児島学術文化出版 2008年
■その他	
特になし	